

# いの流水俳壇

間 浩太選

## 「当季雑詠」

冬ざくら入り日の届く紙工房

井上 郁子

(評)桜といえば春たけなわの花だが、冬咲く桜に冬桜と寒桜がある。冬桜は十二月から翌年の一月にかけて咲く寂しい白色の九重咲きで、木も小さい。十二月の月例俳句会は鹿敷の「土佐和紙芸村」にて吟行と忘年会を兼ねて実施しましたが、この芸村に冬桜の木があり、白い花がちょうど咲いていて眺めたものです。

この句の作者も咲いている冬桜を見て、感心し作句したと思います。この芸村の建物の中に、希望者が紙漉きのできる工房があり、周囲が山で夕暮れが速いですが、工房の窓からの射し入る日光は、完全に山に日が沈むまで紙工房へ日が射している状況を詠まれています。紙工場の発展・充実が手漉き和紙の地場産業の発展につながると、作句者は感じつつちよつと珍しい寒い時期に花を咲かす冬桜とあわせて句にしています。

漉槽に入陽散らして紙を漉く

友草 水月

(評)昔は清流が近くにある農家の冬の副業の一つであったが、現在はそれを專業

とすることが多く、時期的にも冬だけ行われることはない。

紙漉きが冬の季語となっているのは、寒の水で漉いた紙は良質であり特に寒漉きといわれるものは、上質で虫がはいらぬとされている。その他にも理由はあるがやはり冬が紙漉きに最も適している。故に冬の季語になっていると思う。

この句は漉槽を照射している夕陽を漉水と一緒に、はね散らして紙を漉いているのですが、「入陽散らして」と詠んだのには感心しました。

破れ水車冬の瀬音に聞く昔

大川 節弥

(評)この句も土佐和紙芸村内にある停止したままの水車を見て作句したものと思いますが、数年前までは水沫をあげながら回転しており、見物する人も多かったのですが、破損も大きくなり、修繕費・維持管理費その他で多額の経費を要するので休止(廃止か)しているとのことです。が、芸村の一つの名物が停まっているのは残念です。

この水車を見て作句者は、昔回っていた当時の水車を思い出し、瀬音は昔と同じ状況ですので、作者は瀬音に昔の水車の回っていた当時のことを聞きたいの思いを句にしたものと思います。

おはようと寒さを連れし中学生

筒井 正子

(評)過疎の進む峡の冬の暮らしの一端が目に浮かびます。

今は数少ない中学生が登校時に家の前で会ったこの句の作者に「おはよう」と

声を掛け、お互いに挨拶を交わした状況が想像されます。

「寒さを連れし」の詠み方が大変良い言い方だと思いました。最近の、小・中・高校生は挨拶をよくするように感じて良い感じですが。特に過疎地の子どもは挨拶がよくできると感じています。

冬晴れや防犯カメラの無い在所竹崎たかひろ

紙を漉く音に音添う里日和 刘谷 志津

冬晴や画鋏の錆びし案内図 岡本とも子

命日を過ぎ寒菊の香りけり 田蔦恵美子

句ひバラ嫁ぎゆき娘にひとりごと 弘瀬うき子

山里の名もなき庭の紅葉かな 森岡 照月

水仙の振り返るほど香り立つ 山勢憲一郎

冬至とて冷凍南瓜トンガ産 津田 久美

冬桜予期せぬ出会いありにけり 川村 博子

夫になき歳月長し着ぶくれる 片岡 包女

懐手解けば子のもの孫のもの 松尾満津於

世の乱れ知るか知らぬか浮寝鳥 竹崎 光子

母が着て妻着てつぎに案山子着る 間 浩太

次 題 「当季雑詠」五句  
締め切り 毎月五日

投句先

社会教育課

いの町3597  
893-2012

## シルバー農園で野菜作りしてみませんか

町では、高齢者に対する生きがい活動の一環としてシルバー農園を利用して花壇や野菜等を栽培していただいています。

シルバー農園で生きがいづくり、健康づくりをしてみませんか。

▶ 場所 伊野中学校早稲川を挟んで西側の畑  
▶ 対象者 いの町内にお住まいのおおむね60歳以上の方

- ▶ 定 員 5名(応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。)
- ▶ 使用料 一畝(約1m×20m)年間1,000円
- ▶ 契約期間 4月1日から平成25年3月31日(以降更新可)
- ▶ 申込方法 ほけん福祉課(すこやかセンター伊野内) ☎ 893-3810
- ▶ 申込締切日 2月29日(水)